

県南部の水稲湛水直播栽培の播種晩限は6月中旬です

栽培法	播種期	成熟期 (収穫)	収量 (kg/10a)	整粒割合 (%) ※
湛水直播栽培	6/5	10/31	701	65
	6/16	11/8	687	64
	6/26	11/19	653	57
移植栽培	6/27 (移植期)	11/7	675	60



湛水直播栽培の収量と品質（整粒割合）
（2014～2015年の平均、アケボノの例）

※ 整粒割合は高いほど外観品質に優れる

湛水直播栽培の出芽の様子
（鉄コーティング種子を使用）

開発のねらい

水稲栽培では省力・低コスト化が求められています。中でも、水稲湛水直播栽培は苗作りや移植作業が不要なため、省力化が期待できる栽培技術です。さらに、播種期を拡大できれば労力分散にもなります。そこで、県南部の湛水直播栽培に適する品種「にこまる」、「アケボノ」の播種晩限を検討しました。

新技術の概要

- 「にこまる」、「アケボノ」ともに、6月中旬までに播種を行えば、従来の移植栽培並みの収量や品質が十分期待できます。しかし、6月下旬播種では未熟粒の増加や整粒割合の低下で検査等級が低下します。
- 6月中旬播種の湛水直播栽培と6月下旬移植栽培の収穫時期はほぼ同じになります。

活用場面

湛水直播栽培を経営に取り入れると、省力化になると共に、育苗・移植期に特に集中する栽培管理作業が分散できるため、水稲担い手農家の経営規模拡大が期待されます。